

24 円切手再考

国立公園切手の色に隠れた意味があることを並べなおして再認識して、24 円切手を全部並べてみた。なんと国立公園切手だけでなく記念切手にも UPU の規則がみえたのに驚いた。下記のように 1949 年から 1958 年に 4 種発行されて若干色彩が異なるが青色で統一されている。この他を探すと観光地百選



UPU75 周年 平和条約 立太子礼 アジア大会
他に、1958 年国際文通 京都が発行されている

24 円切手が 1951 年から 1961 年に青色で統一されて下記の 10 種が発行されている。国立公園、観光地を中心に発行されている 24 円切手、考えてみれば当然で外国宛て封書船便料金が 16 円から 24 円に値上げされたために発行された外国郵便用の切手あるこ



蔵王山 錦帯橋 日本平 箱根温泉 赤目四十八滝
和歌浦 宇治川 長崎 丸沼菅沼 昇仙峡

表 1 14 円、24 円切手の発行の経過と航空切手発行

	外国郵便 はがき 船便料金	外国郵便 封書 船便料金
1949年	10円→14円	16円→24円
1950年		キジ航空切手発行 24円
1951年		国内航空郵便再開 24円
1952年		銭単位立山航空切手発行 24円 円単位立山航空切手発行
1953年		国内航空郵便制度廃止 速達制度に統合 24円 大仏航空切手発行
1954年		24円
1955年		24円
1956年		24円
1957年		24円
1958年		24円
1959年	料金改定 値上げ20円	料金改定 値上げ30円

とから観光日本を切手で知らせる目的を持たせたのである。75 年前の日本ができた一種の現代でいう SNS とでも言えるか。では、外国宛てはがき船便料金 10 円が 14 円に値上げされどうなったか。24 円切手と異なり非常に少なく国立公園切手 6 種以下記のように 4 種しか発行されてなく、そのうち 1 種は普通切手であるためか額面単位変更発行で灰色に変更された発行になっている。



この 24 円・14 円の 2 種の船使用切手が実は航空便に大きく貢献していることを知らなかった。キジ航空切手との関係である。1949 年 6 月から 51 年 11 月の期間、料金規則で 52 年 2 月銭単位立山航空切手発行までの短期間であったが航空便に使用されたため、表 1 のように発行が多くなったのであろう。24 円、14 円切手とキジ航空切手の組み合わせで下記のような地域へ船便に羽が生え空を飛んだということのようだ。恥ずかしながらこの歳になって 24 円・14 円切手、キジ航空切手の働きを知った次第である。

封書

- + 第 1 地帯：朝鮮・中国・沖縄・香港など
- + 第 2 地帯：ゲム・ヤブ・トラク・ボバ等
- + 第 3 地帯：パキチ・インド・マド・加・米本土
- + 第 4 地帯：豪州・近東・欧州・中米
- + 第 5 地帯：NZ・南米・アフリカ

はがき

- + 第 1 地帯：朝鮮・中国・沖縄・香港など
- + 第 2 地帯：ゲム・ヤブ・トラク・ボバ等
- + 第 3 地帯：パキチ・インド・マド・加・米本土
- + 第 4 地帯：豪州・近東・欧州・中米
- + 第 5 地帯：NZ・南米・アフリカ